

【だんぶり池づくりで配慮したこと】

H E P 2 1 自然環境グループでは、だんぶり池を創るにあたって、以下のようなことに配慮し、市とパートナーシップにより協働して整備することとしました。

1. 二次的自然環境（原生自然ではない）の復元をめざす

休耕田を活用した「とんぼ池」づくり

田んぼ 水稻を栽培する場所・(人の手が加わった) 二次的自然

用水路と排水路（動脈と静脈）が整備されている

溜め池・小さなダム（貯水・地下浸透・蒸発）・湿地としての機能あり

多様な生物（昆虫・淡水魚・両生類・鳥類・植物など）の生息場所

2. 自然の力による再生・復元をめざす（無移植：持ち込まない）

3. 生物多様性を確保する（池の水深・形態等に変化をもたせる）

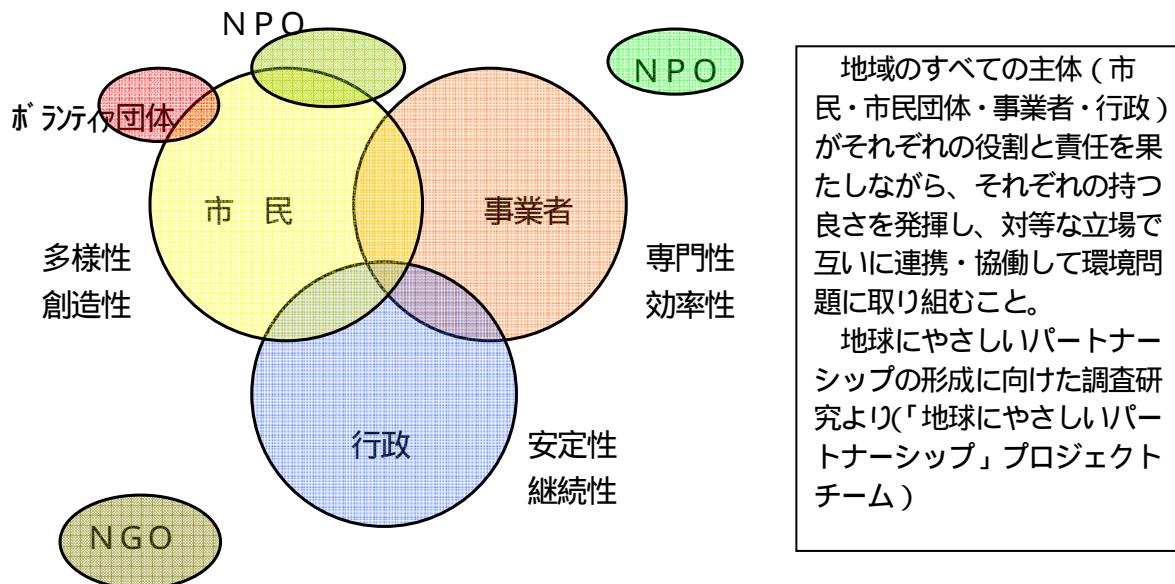
4. 最低限の管理（湿地・湛水池の確保）

5. 環境教育・環境学習の場として活用する

6. 自然とのふれあいの場を提供する（特に都市住民に対して）

7. パートナーシップ（市民・事業者・行政）で整備する

環境パートナーシップ概念図



重なりあった部分が「協働」を指し、協働の仕方を規定(対等な立場・役割分担等)するのがパートナーシップである。